

第七次甲府市総合計画説明会 会議録（甲運地区）

日 時	令和8年6月3日（水）午後7時00分～午後8時00分
会 場	甲運小学校体育館
参 加 者	97名（市長等及び関係職員含む）
次 第	1 市長説明 2 意見交換 3 地区からの挨拶
意見交換記録	
質問	・第七次甲府市総合計画における子ども・子育て支援について 近年、少子化が進行する中で、甲府市では第七次甲府市総合計画において、どのような取組を進めることによって、子どもや子育て世代への支援につなげていくのか、また、子ども・子育て支援については、これまでに具体的にどのような成果をあげてきたのか伺う。
樋口市長	私は、市長就任時から一貫して「こども最優先のまちづくり」を念頭に置き、第六次総合計画の策定に際して、施策の第一の柱に「次代を担う子どもたちを育む」を掲げ、計画の初年度に、子ども施策に特化して取り組む「子ども未来部」を創設し、現在まで、子ども・子育てへの支援に係る様々な施策を総合的にかつきめ細かに推進してきた。 子育て支援の取組として、幼児教育・保育の無償化による保護者の経済的負担軽減や、放課後児童クラブの対象年齢の拡大等による幼児教育や保育サービスの充実を図るとともに、医療費無償化の18歳までの拡大や、不妊・不育症治療費の助成など、安心して子どもを産み育てることのできるよう、様々な費用助成を実施し、子育て家庭に対して心理的・経済的な面から負担の軽減を図ってきた。 また、マイ保健師と家庭相談員の密接な連携の中で、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない相談支援を実施するとともに、「子ども・青少年総合相談センターおひさま・あおぞら」を開設し、子ども・子育て相談機能とヤングケアラを含む青少年相談機能の一元化を図り、充実した相談体制の整備に取り組んできた。不登校児童生徒の増加や、最近、全国で高校生のトクリュウによる犯罪が増加している。深刻化する子どもたちの

質問	環境に対して、この体制をもって歯止めをかけ、さらに充実させていく。 子どもの育ちを応援する取組として、子どもの権利尊重や未来を担う子どもの成長を応援する社会の実現を目的に「甲府市子ども未来応援条例」を制定し、子どもが地域で育つ拠点づくりなどを施策として掲げ、子どもの成長に必要な体の動きが体験でき、子どもが夢中になって過ごせる「ヴァンフォーレおしろらんど」の開設や、条例に賛同する子ども応援団体等の子ども応援プラットホームによる、子どもの体験機会を創出する子ども応援フェスタ等を開催するとともに、青少年ジュニアリーダーの育成や少年の主張大会など、次代を担う子どもの意見表明の場や活躍の機会を創出し、子どもたちの健やかな心身の育成に取り組んできたところである。 これらの取組が、「次世代育成環境ランキング」において3年連続総合1位という高い評価につながり、また、このほかにも、医師会の大きな協力による小児医療の充実が本市の取組の高い評価につながったと考えている。 これらの取組を、引き続き第七次甲府市総合計画の施策に位置付け、さらに磨き上げながら、子ども施策の更なる充実を図り、今年度から新たに、教育環境と子育て支援の更なる充実を図るため、本市全ての小中学校の児童生徒の学校給食費の無償化の実施や、安全・安心な教育環境と良好な避難所環境を確保するため、市立小中学校と甲府商業高校への空調設備の完全設置に向けて舵を切ったところである。 さらに圏域全体で一体となって取り組むヤングケアラーへの総合的な支援や、子どもの応援拠点施設の整備、1か月児健診、5歳児健診の実施などを着実に推進しながら、地域の皆様、関係機関による、全ての大人が全ての子どもを育み、子育て世帯を応援する環境づくりに努め、未来に輝く子どもを育むまちの実現に取り組んでいく。 ・ 地域コミュニティの弱体化について 地域コミュニティの弱体化について、安全・安心で快適な「まち」創りで、災害や犯罪・交通事故などから暮らしを守るべく、防災・防犯対策、交通対策を踏まえて、少子高齢化やライフスタイルの多様化等による地域コミュニティの弱体化にどのよう
-----------	--

市民部長	に対応していったら良いのか、考えを伺う。 本市では、地域の皆様との協働により、各地区における防災訓練や防犯街路灯の維持・管理、通学時の子どもの見守りやカーブミラーの整備など、安全・安心で快適な地域づくりに取り組んでいる。 こうした中、近年の人口減少・少子高齢化やライフスタイルの多様化などによる地域活動への影響が懸念されている。 このため本市では、自治会加入率の低下も踏まえ、転入や住宅を新築された方への自治会加入促進チラシの配布や、自治会連合会と不動産関係団体と連携し、アパートへの新規入居者などへ自治会加入の働きかけを行っている。また、「広報こうふ」や市ホームページを通じながら、防災・防犯などにおける自治会活動の役割や重要性を継続的に情報発信することで、自治会加入への理解の促進に努めている。 また、加えて、企業、学生などと連携しながら、あつ活サポーターによる地域活動への支援を行うとともに、多くの市民が自治会活動に関心を高め、積極的に参加できるよう、集会や出前講座を通じて意識の醸成や人材育成、地域活動における負担軽減にも努めている。 今後においても、地域の皆様と行政が連携を図りながら、持続可能で安全・安心な地域づくりに取り組んでいく。引き続き、協働パートナーとしてご理解・ご協力を賜りたい。
質問	・地域公共交通の向上と持続可能な公共交通体系の実現に向けた施策について 地域交通について、高齢化社会の中で、まちづくりの方向性の一つとして、地域公共交通の向上については、どのような施策をお考えか。また、リニア中央新幹線の開通を見据え、持続可能な公共交通体系の実現に向けた施策について、考えを伺う。
リニア交通政策監	本市では、将来にわたり誰もが暮らしやすいまちづくりの実現に向け、「甲府市地域公共交通計画」に基づき、既存の地域公共交通の維持や、公共交通空白地域における移動手段の確保等に取り組んでいる。 このような中、甲運地区をはじめ、公共交通の空白地帯があ

質問 総務部長	る市内 11 地区における高齢者の移動手段を確保するため、70 歳以上の方を対象に「こうふデマンドタクシー」の実証運行を実施しており、令和 8 年度においては、7 月 1 日から 11 月 30 日までの間、公共交通セーフティネットの有効性について、利用実績やアンケート調査の分析を行うほか、既存公共交通への影響について、交通事業者へのヒアリングを行うなど、多方面から検証し、より多くの方々にご利用いただけるよう、本格運行の実現に向けて取り組んでいく。 甲運地区の皆様においては、引き続きご協力をいただけるようお願い申し上げます。 次に、将来的なリニア開業を見据えた持続可能な公共交通体系の実現については、現在、山梨県が主体となり、県内の全自治体で構成する「山梨県公共交通網再編研究会」において、富士トラムをはじめ次世代モビリティ等を活用した新たな公共交通網の構築に向けた研究などを行っている。 今後においても、山梨県や県内自治体、民間事業者等と連携し先進事例の調査研究を重ねる中で、市民の皆様や本市を訪れる方々が、安全かつ快適に移動できる環境の整備に努めていく。 ・外国人人材の受入れについて 先ほどから人口減少という言葉を目にするが、甲府市は外国人労働者、または外国からの人材受入れについて、どのように考えているか。 甲府市では外国人が安心して住める施策を進めており、4 期目の多文化共生推進計画を策定したところである。外国人市民が安心して住むためには、コミュニケーションと、日本文化への理解が重要であることから、日本語教室や日本文化講座を開催している。一方で、日本人も外国文化を知ることで、共通認識が深まり、相互が安心して住めるまちになり、外国人の就職や就学につながると考えている。 5 年前の令和 3 年に比べ、外国人人口が約 2 千人増加し、市の人口全体の 4 % を占め、また、約 94 もの国から来ている。 今後も外国人市民は増加することが予想されることから、コミュニケーションを相互に取り合いながら、住みよいまちづくりを進めていく。
-----------------------	---

質問	・市内企業への就職や企業誘致について 先ほど、少子高齢化に関する質問があり、市の取組について伺ったが、人口減少や都会への流出は発生していくものであると思う。 そこで、例えば、Uターン、Iターン、あるいは甲府市への企業誘致の具体的な目標、または施策はあるか伺う。
企画部長	社会減が生じる中で、高校生に甲府を知ってもらうために、地域課題を解決するための探求活動を行い、大学生には圏域の企業を紹介するイベントを行っている。 若い世代が都会へ出ることはやむを得ないこともあるが、ふるさと甲府を就職先のひとつとして考慮してもらえるような取組を推進しながら、人口減少という課題に取り組んでいる。
質問	・高齢化に伴う課題（空き家、耕作放棄地）について 甲運地区においても高齢者が増加しており、高齢者の単身世帯、空き家問題、農地の耕作放棄地が見られ、隣地の住民にとって、深刻な問題となっている。今後、より一層の対策の強化をお願いする。
企画部長	耕作放棄地については農地バンクによる農地の活用、空き家については空き家バンクによる空き家の活用や、地域のコミュニティ活動に貸付を行う制度もある。具体的な課題があれば、現地の状況を確認し、適切な対応を行うので相談してほしい。
樋口市長 (まとめ)	皆様から地域の課題を聞かせていただいた。 空き家問題は、火災の原因や動物が棲みつくなど、他の地域でも深刻な課題となっている。個人の所有物であることから、順を踏んで問題を解消していくが、地域の安全・安心に関わることにについては早急に対応するため、個別に現場を確認していく。 外国人市民については、第七次総合計画において、あらゆる人が幸せを感じられるまちを謳っていることから、画一的ではなく、個に合わせたメニューで対応していきたいと思っている。地域の担い手不足の中、外国人市民が地域の担い手となり活躍

	している地域もある。同じ甲府市民として相互の絆をあたためていただきたい。 第六次総合計画から一貫して行ってきた子育て支援、子育て応援を、今後さらに推進していく。人口減少については様々な施策に総力を上げて右肩上がりにはならない状況ではあるが、スタートアップ企業とのマッチングや企業誘致に絶えず努め、成果につなげていく。 甲府の未来のために、皆様と共に取り組む所存である。本日は皆様からの意見を伺う貴重な機会をいただき感謝申し上げます。
地区からの挨拶要旨	
甲運地区自治会連合会会長	長時間にわたり、市長及び関係者の方々から分かりやすい説明と丁寧なご回答をいただいたことに感謝申し上げます。 甲府市、並びに甲運地区の市民、皆が幸せを実感できるまちになるよう期待をしている。